鶸茶曽我

芝全交初作

北尾重麿画

合三冊

208
329

安永九

国立国会図書館　鶸茶曽我 3巻 208-329

ガラス使用

序

詩

御門出門前松竹傍。共謂御慶

御愛度共謂御祢御春長雙六新

板年〻改下略 也乃絵さらし亦

趣向新〻諸事物毎九〻して

隨意氣に叶事有 仏物

[illegible]ず弁慶も力はなく止まる

国立国会図書館　　鶉茶曽我 3巻 208-329

ガラス使用

皆陽春揚名あり野芹の名
のこる残せりはもとど鯛の味噌吸で
一杯呑けり山のかんぐすとせりぬを
かぐんて直三二通笑ゞ家譜式と
かなと世の中を二冊三冊と西落
なるべし作者乃金ゝとゝ
さとなるべし名ハ笑櫻田より

も高く顕負ハ三林秀好と同
じ故ゑ大のことを素人を通作を
弄びおもしろきをきゝ法ん
ごせつすと歎し於て我をおさや
あ〻ぐもと黙ゝ天こんかゝはは
屋りてすとゝ以題を求めるの
一法を上下ある通人形氣ゝだ

国立国会図書館　鶸茶曽我 3巻 208-329

ガラス使用

付き出し菓子で献立曽我の
おどりの紫そぐれさうなもの
おうらう和て舞屋がすめれ一部
よ者作去の巣巡て呼ぶ
所を同じ小ぶの蒲まき鶯菓
皆我と巻てとを事れ新板く突
ぐらんぐ下されぐ是でうれう
しゅうこぐわく

去程ふころハ以八八は年のくるとく
くもむすこいりのそぐのさあ〜けんと
とのちろハふ〜とく〜ちのそのてぐと
まろれんとうくハのやうより〜もいけん
やふき者の工者はろふ芳れうとのひ
つひのふ 紬と書ハろぐをふわの
たくさんおるしあ
きうこうまきふ
をとして金とう
の右まへのそう
うつひ金とふやと
おそろう〜
とさハうこ〜ぐう
きしとさあ〜
うハこさう〜もてうの
ちこあ〜とあれぐの
こんあのものとう〜
りこひせそうこれぐ
ひんの大〜こん
しゅこじあと
じけあのじや

国立国会図書館　　鶉茶曽我 3巻 208-329

ガラス使用

国立国会図書館　　鶸茶曽我 3巻 208-329

ガラス使用

国立国会図書館　　鶸茶曽我 3巻 208-329

ガラス使用

国立国会図書館　　鶸茶曽我 3巻 208-329

ガラス使用

国立国会図書館　　鶸茶曽我 3巻 208-329

ガラス使用

国立国会図書館　　鶸茶曽我 3巻 208-329

ガラス使用

国立国会図書館　　鶸茶曽我 3巻 208-329

ガラス使用

国立国会図書館　　鶸茶曽我 3巻 208-329

ガラス使用

国立国会図書館　鶸茶曽我 3巻 208-329

ガラス使用

国立国会図書館　　鶸茶曽我 3巻 208-329

ガラス使用

国立国会図書館　　鶸茶曽我 3巻 208-329

ガラス使用

国立国会図書館　　鶸茶曽我 3巻 208-329

ガラス使用

国立国会図書館　鶸茶曽我 3巻 208-329

ガラス使用

国立国会図書館　　鶸茶曽我 3巻 208-329

ガラス使用

208
329

御用印の事

画工 北尾重政
作者 芝全交

版元 千鶴堂 鶴屋

国立国会図書館　鶉茶曽我 3巻 208-329
ガラス使用

国立国会図書館　　鶸茶曽我 3巻 208-329

ガラス使用